原爆投下から80年 広島市長が平和宣言で 若者へメッセージを訴える!

8月6日、広島に原爆が投下されて80年が経過しました。本日行われた平和祈念式典で、広島市の松井市長は、「平和宣言」の中で若い世代へメッセージを述べました。

◆核兵器のない平和な世界を創るためには、たとえ自分の意見と反対の人がいてもまずは話をしてみることが大事であり、決してあきらめない『ネバーギブアップ』の精神を若い世代へ伝え続けた被爆者の体験に基づく貴重な平和への思いを伝えていくことが、ますます大切。

◆ロシアによるウクライナ侵攻や混迷を極める中東情勢を背景に、世界中で軍備増強の動きが加速している。こうした現状に強くとらわれ、「自国を守るためには、核兵器の保有もやむを得ない」という考え方が強まりつつある。こうした事態は、国際社会が過去の悲惨な歴史から得た教訓を無にすると同時に、これまで築き上げてきた平和構築のための枠組みを大きく揺るがすものである。このような国家が中心となる世界情勢にあっても、私たち市民は決してあきらめることなく、真に平和な世界の実現に向けて、核兵器廃絶への思いを市民社会の総意にしていかなければならない。

◆次代を担う若い世代には、軍事費や安全保障、さらには核兵器のあり方は、自分たちの将来に非人道的な結末をもたらし得る課題であることを自覚していただき、市民社会の総意を形成するための活動を先導し、市民レベルの取組の輪を広げてほしい。

「平和な世界」を次代へつなぐために、
今を生きる私たち1人ひとりが考え、行動しよう!